

## 2. ラークスパーの採種に適する作型（情報）

## [要約]

ラークスパーでは、10月あるいは4月播種作型から採取した種子が発芽勢・発芽率が良く、10月、4月播種作型で採種するのが適当である。

研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277
------	---------	-----	--------------

## [背景・ねらい]

ラークスパーの種子のほとんどは自家採種でまかなわれているが、採種に適する作型については明らかでない。そこで、作型別に種子の発芽勢・発芽率などを調査して採種に適する作型を選定する。

## [成果の概要・特徴]

1. 6月、7月、8月、9月、10月、2月、4月播種作型について検討したところ、10月播種、4月播種作型で、発芽勢・発芽率が共に良好であった（表1、表2、図1）。
2. 茎当たりの精子実粒数は、10月播種区で多く、8月播種区で少なかった。千粒重は、6月播種区で重く、4月播種区で軽かった（表2）。
3. 精子実粒数と発芽率を乗じて求めた発芽見込み種子粒数は、10月播種区で多く、8月播種区及び2月播種区で少なかった（表2）。
4. 播種から種子の成熟までの期間は、4月播種作型で最も短く、9月播種作型で最も長かった（表2）。

以上の結果を総合すると、10月播種あるいは4月播種作型が採種に適していると判断された。

## [成果の活用面・留意点]

1. 10月播種作型では栽培施設内の湿度が高くなりやすく、病害が発生しやすいと考えられるので、病害防除を徹底する。

[具体的データ]

表1 ラークスパー作型の耕種概要

作型	育苗方法	本圃の加温の有無	摘心の有無	電照の有無
6月播種	冷房	無	無	無
7月播種	冷房	一部有	無	無
8月播種	冷房	一部有	無	無
9月播種	一部冷房	有	有	有
10月播種	加温	有	有	有
2月播種	加温	一部有	無	無
4月播種	一部加温	無	無	無

表2 作型がラークスパーの生育並びに種子生産に及ぼす影響

作型	50% 開花日 (月日)	平均 成熟日 (月日)	精子実粒数 (g/茎)	千粒重 (g)	発芽率 (%)	発芽見込み種子粒数 <sup>z</sup> (/茎)
6月播種	9/9	10/16	115	4.0	88	101
7月播種	10/9	11/30	156	3.7	84	131
8月播種	12/19	3/9	70	3.1	77	54
9月播種	3/7	4/26	104	3.7	75	77
10月播種	4/3	5/12	179	3.1	88	158
2月播種	6/14	7/13	87	3.4	72	63
4月播種	7/14	8/8	106	2.8	93	98

注) 市販種子2ロットの千粒重は、2.4g及び2.7gであった。

<sup>z</sup> 発芽見込み種子粒数=精子実粒数×発芽率。

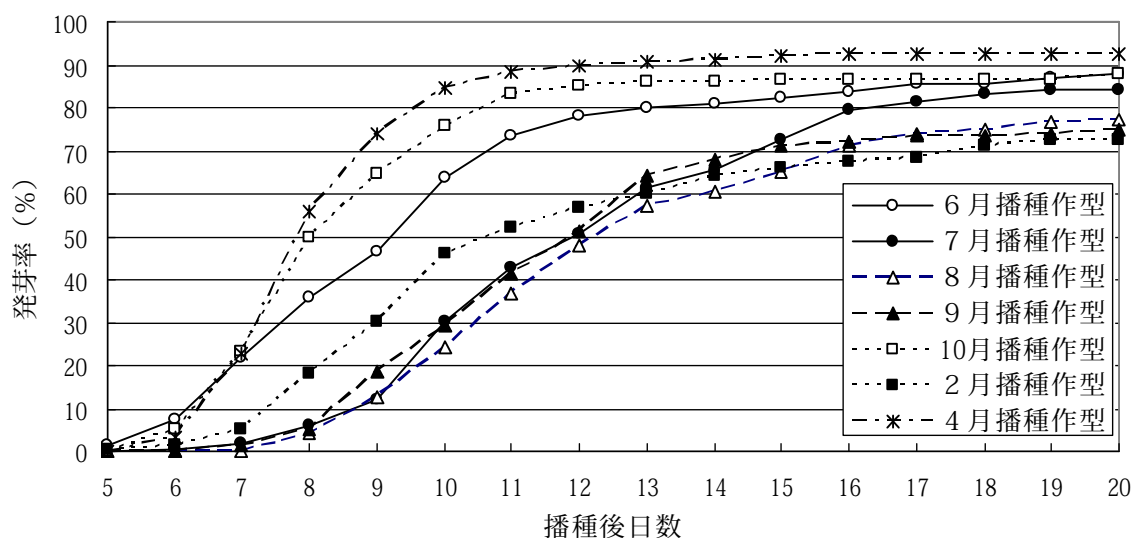


図1 ラークスパー播種作型ごとの採取種子の発芽率の推移

[その他]

試験研究課題・事業名：ラークスパー優良系統の育成と採種・育苗技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成14～16年度